

【平成20年度当初予算の特徴】

- 1 予算規模は、前年度当初予算対比1.2%の増加、肉付け後（6月補正予算後）対比1.5%の減少

単位 千円

区 分	20年度当初	19年度当初	増減額	増減率	6月補正後	増減額	増減率
一般会計	73,630,000	72,790,000	840,000	1.2%	74,720,895	1,090,895	-1.5%
特別会計	88,591,599	88,399,085	192,514	0.2%	88,603,278	11,679	0.0%
病院事業会計	10,929,000	11,171,000	242,000	-2.2%	11,171,000	242,000	-2.2%
合 計	173,150,599	172,360,085	790,514	0.5%	174,495,173	1,344,574	-0.8%

- 2 市税の11億1千万円の増加などにより、自主財源比率は75.2%となり、前年度当初比較で0.8ポイント増加

- 3 目的別予算のベストスリーは、民生費・土木費・教育費

構成比 市民一人当たり

- (1) 民生費 33.2% 94,821円
 (2) 土木費 16.6% 47,408円
 (3) 教育費 10.4% 29,773円
 * 公債費 7.4% 21,060円 一般会計全体 285,756円/人
 公債費負担比率 9.8%

- 4 義務的経費は、扶助費・公債費の増加により1.4%の増加

単位 千円

項 目	平成20年度	増 減 額	増減率
人件費	16,933,840	465,898	-2.7%
扶助費	12,895,091	603,907	4.9%
公債費	5,426,356	338,494	6.7%

- 5 将来負担を考慮し、財源補てんのための市債（臨時財政対策債）の発行予定を前年度比較で7億円減額し、市債発行は平成17年度以来4年連続減少

平成20年度末の市債残高見込みは1,172億4千万円となり、19年度末見込みと比較すると一般会計で約15億5千万円、3.2%減、全会計で約37億9千万円3.1%減

(千円) (円)

	残 高	市民1人当り
一般会計	46,647,631	181,038
全会計	117,242,522	455,016